



電子処方箋の内容をタブレット端末と連携することにより、 完全ペーパーレス化・業務効率化を実現！

POINT:完全ペーパーレスを実現するために、タブレット端末を積極的に活用！

レセプトコンピュータで受け付けた電子処方箋及び過去の処方・調剤情報をタブレット端末に連携し、調剤～服薬指導～薬歴の記入までをタブレット端末で一気通貫して実施。

POINT:完全ペーパーレスにより、業務時間、経費の削減に！

薬剤師が各自のタブレット端末で薬歴を記入することで、レセプトコンピュータを利用するための待ち時間を削減。調剤の際に処方内容を印刷する必要がなくなり経費を削減。

【参考】(株)ファームストあすなろ薬局 (千葉県)

電子処方箋×タブレット端末の導入により得られたメリット

【業務面】

- ✓ 完全ペーパーレスによりピックアップのために処方内容を印刷する必要がなくなった。
⇒受付時間が**1～2分**短縮
- ✓ 在宅医療では、過去の薬歴等を紙で持参する負担がなくなった。
⇒投薬時間含め**5～10分**短縮
- ✓ タブレット端末に検査値等を計算できるソフトを導入し計算の負担が少なくなった。
⇒調剤時間が**10分程度**短縮
- ✓ 投薬台に服薬指導のためのパソコンを置く必要がなくなり、スペースを広く活用できる。
⇒服薬指導時間を**5分程度**短縮
- ✓ 薬歴記入も薬剤師が各自の端末のできるので、レセプトコンピュータへの入力待ちが解消された。
⇒総薬歴記入時間が**30分以上**短縮

【経営面】

- ✓ 処方内容の印刷が軽減され、紙資源が節約された。
⇒**月7,000円**ほどの経費節減
- ✓ タブレット端末を薬剤師の人数分導入してもレセプトコンピュータの保守料自体は変わらないため、レセプトコンピュータを複数台導入するよりも保守コストが削減されている。



営業企画部部長 薬剤師
石畑 政克 さん

在宅、一包化、散剤等でも完全ペーパーレスを実現しました。
レセプトコンピュータの契約更新時に随時、ペーパーレスになるシステム導入させて頂いております。
電子処方箋ですと、薬歴アプリにそのままアップされるので、非常に便利です。
今までは薬歴記入はレセプトコンピュータでないと記入できないので渋滞が起こっていましたが解消されました。

タブレット端末を使用した電子処方箋の業務の流れ

①受付

- 患者さんが、マイナ保険証を用いて、顔認証付きカードリーダーで受付、又は健康保険証と引換番号で受付する
- 薬局側には、自動で処方内容がレセプトコンピュータとタブレット端末に取り込まれる



(処方内容がタブレット端末に取り込まれる様子)

②調剤

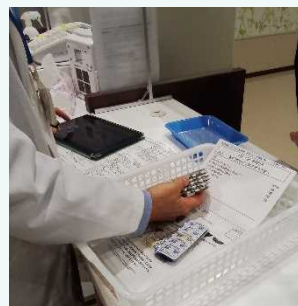
- 薬剤師がタブレット端末で処方内容を確認しながら調剤する



(調剤室内でタブレット端末で処方内容を確認しながら調剤する様子)

③服薬指導

- 薬剤師がタブレット端末で処方内容を確認しながら、患者に服薬指導を実施する



(タブレット端末の処方内容を確認しながら服薬指導する様子)



(患者さんにタブレット端末に表示される服薬方法を見せながら、吸入薬指導をする様子)

④薬歴記入

- 薬剤師が各自のタブレット端末から薬歴を入力する



(タブレット端末から薬歴を入力する様子)

電子処方箋とタブレット端末等を合わせて活用することで、更なる業務の効率化が見込めます。